



「戦争と平和の資料館 ピースあいち」の新体制が決まりました。

5月19日のNPO理事会で、「ピースあいち」の館長が野間美喜子から宮原大輔へ、事務局長が宮原大輔から赤澤ゆかりに交代しました。

## 新館長のご挨拶

この度、「戦争と平和の資料館ピースあいち」の館長を務めることになりました。「ピースあいち」設立の中心となり、また開館後は11年間にわたり館長としてお務めいただいた野間美喜子前館長の後任として「ピースあいち」運営の重責を担わせていただくこととなります。野間前館長を始めとする多くの先人の皆様方の功績を大切にしつつ、「ピースあいち」の運営に全力を傾けてまいりたいと思っております。

「ピースあいち」は、かつての戦争を思い起こし、平和の大切さを語り未来の平和に向けて発信してい

## 館長 宮原 大輔



くという目標を守りながら、これからも民立民営、ボランティアに支えられた資料館として運営して参ります。

「ピースあいち」は昨年開館10周年を迎え、今の10年に入りました。民間運営としての厳しい館運営は今後も続きますが、先を見据えた充実発展を模索して参りたいと思っております。どうか皆様方におかれましても、「ピースあいち」へのご協力、ご支援を引き続き賜りますようお願い申し上げます。

## 《特別企画展》 高校生が描くヒロシマと丸木位里・俊「原爆の図」

開催中～9月2日(日)

昨年、市民団体ICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)がノーベル平和賞を受賞したことを記念して開く、「ピースあいち」の核廃絶への思いをこめた原爆展。

「高校生が描くヒロシマ」は、被爆体験者の高齢化が進み、その体験の継承が急務となっているなか、広島市立基町高校創造表現コースの生徒が2007年から始めたプロジェクトです。生徒たちは証言者の被爆体験を聴き、何度も打ち合わせを重ね、また自ら資料を集め、約1年かけて「原爆の絵」を描きあげます。これまでに制作された絵は119点、そのなかの10点が「ピースあいち」に来ます。

一方、当館では丸木位里・俊作「原爆の図」の展示会を継続的に開催してきました。今年の夏は、第11部《母子像》(1959年)が埼玉県の丸木美術館からやってきます。

丸木夫妻が自分の体験をもとに描いた「原爆の図」と、いま高校生たちが語り継ごうとして描く「原爆の絵」を並べて展示するという試みです。丸木夫妻と現在の高校生、60年近い年月を越えて描かれた「原爆の絵」は、観る者にどのように響きあうのでしょうか。



2018年1月15日、ICANのベアトリス・フィン事務局長と若者との対話集会に広島市立基町高校の10名の生徒が参加した。会場には生徒たちが制作した「原爆の絵」10点が展示された。



### 【展示作品】

- 高校生の絵(広島市立基町高等学校創造表現コースの生徒たちによる)  
「消えていった幼い姉妹…生きていてほしい」、「ヒロシマ～昇る魂～」、「閃光」、「死んだ我が子を背負う若いお母さん」、「忘れられない～あの目」、「人間襦袢(らんの)の群れの中に」、「おいしかったよお…ありがとう…」、「変わり果てた友人」、「市内電車の中で吊革を持ったまま焼けて、骨になった人」、「後に生きる人たちへ」。いずれも油絵、F15号サイズ(広島平和記念資料館所蔵)
- 丸木位里・俊 原爆の図 第11部《母子像》  
180×720cm、1959年(原爆の図丸木美術館蔵)



入場料 大人 600円 小中高生 200円  
※入館料 大人300円 小中高生100円を含みます。  
休館日 月曜日(会期中は日曜日も開館します)

## 企画展「杉山千佐子追悼展一名古屋空襲と戦傷者たち」

2月27日(火)～5月19日(土)

軍人・軍属は救済するが、国と雇用関係がなかった民間戦災犠牲者、傷害者は救済しない日本政府の理不尽な対応に、杉山千佐子さんは101歳で亡くなるまで民間戦災傷害者の救済を求める運動の先頭に立ち続けました。杉山さんの生涯と、空襲時に避難を遅らせ人的被害を大きくした戦時下の「防空法」について展示しました。



### 関連イベント

#### ◆講演会「私はひとつの眼からしか涙が出ない～杉山千佐子と3月25日の空襲」 2月27日(火)午後2時～

講師は西形久司さん(東海高校教諭)。杉山さんが被災した3月25日の空襲は、街を焼き尽くす焼夷弾ではなく、爆弾が使われました。「なぜ市街地爆撃に爆弾を使ったのか」—その特徴を、杉山さんの証言や米軍資料を使って話されました。



#### ◆研究発表「国際法からみる名古屋空襲」 3月3日(土)午後2時～

愛知学院大学法学部国際法ゼミ(尋木ゼミ)の学生が、名古屋空襲にあった軍需工場や鉄道などについて、それぞれ個別に国際法を当てはめ、その空襲が合法か違法かを判断するという研究発表。参加者からも活発な意見が出されました。



#### ◆「杉山千佐子さんの戦争体験の語り継ぎ」 3月24日(土)午後4時～

「ピースあいち 語り継ぎ手の会」の発足を知った椋山女学園高校放送部が制作した作品です。杉山さんの遺したたくさんの言葉を、若い高校生たちが語り継ぎました。「杉山さんの活動も、戦争体験の語り継ぎも、ゴールの見えないものかもしれません。でも行動しなければ何も起こらない。高校生でもできることはあります」。



#### ◆講演会「杉山千佐子とは何だったのか～生涯をかけ日本社会の歪みを告発～」 4月14日(土)午後1時30分～

講師は全国空襲被害者連絡協議会副運営委員長の岩崎建弥さん。新聞記者として杉山さんを取材したのち、生涯にわたってその活動を支えました。「『国に人間扱いされてから死にたい』という言葉を残して101歳で亡くなって1年半。その存在は時間がたつにつれてますます大きくなり、未だつかみきれません」。



### 名古屋空襲から73年 空襲犠牲者追悼の夕べ

3月24日(土)夕刻、「緑風の会」により、愛知時計での20歳の女性の空襲体験や音楽評論家の湯川れいこさんの戦争体験手記などが朗読された後、前庭のお地藏様の前でしめやかに「ともしび法要」が行われました。制服姿の高校生が手を合わせている姿が印象的でした。



### 2018年度定期総会の開催

6月9日(土) 於:「ピースあいち」  
2017年度の事業報告・年度決算報告・監査報告、2018年度事業計画(案)、予算(案)、定款変更の件を審議、可決されました。その後、「今後の取組みと会員の拡大に向けて」、会員の意見交換や提案がありました。それらは記録し、運営委員会などに諮っていきます。

## 企画展 沖縄の『こころ』- 追悼 大田昌秀と儀間比呂志展

5月29日(火)~7月7日(土)

儀間比呂志のコーナーには、ハンセン病への差別、そして沖縄戦の悲惨さを描いた創作絵本『ツルとタケシ』の原画を、沖縄愛楽園自治会からお借りして展示しました。それを知った国立駿河療養所の小鹿美佐雄さんが来館され、「『ツルとタケシ』が名古屋で見られることをうれしく思う」「戦争を描いた版画と、日常生活を描いた版画が対照的」と話されました。また映画「標的の島 風(かじ)かたか」もご覧になり、「沖縄の人たちの反基地の戦いに感動しました」と、共感の感想を寄せられました。

一連の沖縄展示やイベントに参加された方たちからは「沖縄の人が、どうして基地にあんなに強く反対するのかを少し理解できた気がします」「子どもたちを先の戦争のような事態に巻き込んではいけませんよね」といった感想もありました。

「基地のない島」を願った大田昌秀元沖縄県知事の歩み、「自分たちの本当の生活を勝ち取るために闘い続けてきた沖縄の人たち」を彫り込んできた絵本作家・版画家の儀間比呂志の心や思いを訴えることができたと思っています。



### 関連イベント

◆「標的の島 風(かじ)かたか」  
上映会と沖縄報告トーク  
6月2日(土)

豊かな自然文化を交え、沖縄のさまざまな現実と反対派住民たちの抵抗を映し出す三上智恵監督のドキュメンタリー映画、そして映画と響き合う大月ひろ美さんの沖縄報告トーク。大月さんは沖縄の戦いに参加された経験を熱く語り、三線を弾きながら八重山民謡を歌いました。



◆沖縄慰霊の日・講演と朗読のつどい  
6月23日(土)

- ・講演「大田昌秀の見た沖縄戦・儀間比呂志の感じた戦世(いくさゆ)」  
阪井芳貴さん  
(名古屋市立大学大学院教授)
- ・朗読 「平和の詩」群読  
ピースあいち朗読の会「オリブ」沖縄慰霊の日・講演と朗読のつどい



## ■沖縄写真展 辺野古・高江のたたかい~本土では見えないほんとうの姿~

5月29日(火)~7月7日(土)

展示替えを3回して、辺野古で座り込み運動をしている市民たちが撮影した写真を観ていただきました。辺野古や高江での運動の様子、機動隊・

海上保安庁による暴力的排除の瞬間、そして本来の自然の魅力といった、現地のほんとうの姿を知っていただけだと思います。



## 2018年 夏の戦争体験語りシリーズ

恒例のピースあいち夏のイベント。今回から、語り手のほかに、語り継ぎ手の語りも加わります。

月日	語り手	体験の概要	月日	語り手	体験の概要
8月1日(水)	鈴木 忠男	生かされなかった情報-無線通信候補生	8月 9日(木)	神谷 則明	父が語った悪魔の731部隊
8月2日(木)	松下 哲子	旧満州・奉天市における戦中戦後の生活体験	8月10日(金)	中村 桂子	父の沖縄戦
8月3日(金)	加藤 照	岡崎空襲と勤労働員	8月11日(土)	乳井野間 貴宏	八木湯太郎作「おいちゃん戦争の話聞かせて下さい」
8月4日(土)	高橋みな子	10歳の少女が体験した戦中戦後	8月12日(日)	目崎 久男	非国民と罵られたサイパン島帰りの少年
8月5日(日)	木下 富枝	広島原爆	8月14日(火)	河村 廣康	シベリア抑留
8月7日(火)	澄谷三八子	名古屋空襲	8月15日(水)	鈴木 隆充	兄の戦場体験

\*各日とも、語り手の体調により変更することがあります。

\*入場料:入館料(大人300円・小中高生100円)または入場料(特別展大人600円・小中高生200円)が必要です。

## 平和へのメッセージ

記憶は、時間と共にあいまいになっていくけれど、記録に残しておけば、後の時代に引き継がれていく。ならば、あの時代のことも、記録に残しておこう。思い出し、語り継ぎ、記録にとどめておけば、二度と愚かな戦争をしようとは思えない。この「平和へのメッセージ」にも、そんな願いが込められている。今年もまた、鎮魂の8月がやってくる。

### 誰の心にもいる平和君への呼びかけを

岡田 忠昭

(愛知詩人会議「沃野」編集長)

その朝も妻と一緒に犬の散歩に出かけ、孫の成長ぶりや旅行の思い出、週末の予定などを語り合っていた。ところが、午後の約束を私が忘れていたために妻がむくれてしまい、翌日になっても口を利いてくれない。よくある犬も食わない夫婦喧嘩というやつだ。それはまあそのうち何となく仲直りするのだが、その間のぎくしゃくした関係は何とも落ち着かないものだ。そんな時、私の中のもう一人の私がささやく。

「だからいつも言っているだろう、平穏な時ほど気をつけろと。」

平和とは抽象的な概念で、夜空に輝く一番星のようなものと思いがちだ。だが、本当はいつも私と一緒にいるもう一人の私のような存在なのだ。ちっとも返事をしない子どもにイライラしたり、電話の音が大きい

のに腹をたてたり、遅くなった食事につい嫌味を言ったりする時にも一緒にいる。そして、何もない穏やかな時にそっと語りかけてくる。「こういう時こそ気をつけろよ。」

私たちの日常は、ちょっとした人間関係に振り回されたり、あふれかえる情報に流されたりして、ホッとできる時間はほんの少ししかない。でもそんな時こそ、私の中にいる平和君の声に耳を傾けたい。そして、毎日の職場や学校、家族やご近所さんとの付き合いの中で、誰の心の中にもいる平和君に声をかけたい。手を結び一緒に声を出そうとメッセージを届けたい。



### 〈軍国少年〉であった日々

石黒 廣昭

(住基ネット反対運動を進める会会員)

「戦時」中の幼い私は、〈軍国少年〉でした。この〈軍国少年〉は、どのような姿をしていたのでしょうか。私自身が今思えばそれはそれなりに痛切であって、私の根っこにあったものは一種の緊張のものとして思えばかえされます。

私は終戦の年である昭和20年の4月に国民学校に入学し一年生となったのですが、その入学前の三月に名古屋大空襲を体験していたのです。三月中旬の夜、私は自宅裏の畑に作られた防空壕の脇に立って、北方の軍需工場を爆弾・焼夷弾によって破壊し、南方の工場群をめざして飛んでいくB29の大編隊を見上げていたのです。そのときの轟音と閃光は、いまだに私の五感の中に残っています。

しかし、この大空襲を見上げて『教育勅語』の「一

旦緩急あれば」を感じていた〈軍国少年〉の私は、昭和十八年暮れに応召して歩兵第六連隊に属し中国戦線に赴いていた父が(私たちを守るために)この空襲と戦っている

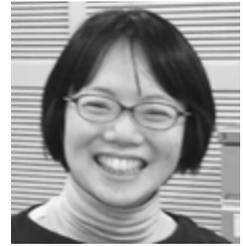
と思っていたのです。だが実際には、父はこの大空襲の前年である昭和十九年七月に、中国中部の武漢南方の野戦病院で「戦病死」していました。そのことが私たち家族に告げられたのは、私たちが縁故疎開で西加茂郡三好に移った四月のことでした。結果として、私につきつけられたのは、〈軍国少年〉の空虚でした。それは終戦への時間とともに新たな課題を私につきつけるものでもあったわけです。



## 毎日の行動が平和をつくる

田巻 紘子

(弁護士、ストップ改憲ママアクション@あいち)



関西で大地震がありました。小学校プール脇に無謀な高さで積み上げられていたブロック塀が倒れ、女兒が亡くなりました。女兒の死を悼む間もなく、ネット上では「プールの覗き見を防げと、塀をたてさせたフェミニズムに責任がある」というフェミニズム攻撃(女性が権利を主張することへの攻撃)が盛んです。問題にすべきは、子ども達の命を脅かす塀しか建てられず、建て替えもできないほどの予算の少なさであるのに。私が生きるこの社会に生じている分断の亀裂の大きさを示す、一つの出来事です。

戦争を望む人びとは、一人ひとりの尊厳が互いに重んじられる社会では、現代の戦争は起こせないことをよく知っています。だからこそ、自己責任と言った

り、冷笑、デマ、バッシングなどの手法を駆使したりして、分断を進めるのです。

分断に対する答えを私たちはすでに持っています。日本国憲法の前文“平和的生存権”、そして13条“個人の尊厳”。前者は全世界の国民と分かち合う権利だと、明記されています。

身近に起こるどんな分断に対しても声をあげることに。あなたも私も一緒にによりよく生きようと、連帯を模索すること。毎日の行動が平和をつくると、希望を抱いています。

## 千早平和地蔵

敦賀 俊貴

(建昌寺住職)



昭和二十年三月十九日未明の名古屋大空襲で、当時千早(現新栄)にあったお寺は焼失しました。先代住職は当時十二歳で学童疎開によって静岡県由比町に居りましたが、小学校卒業のため名古屋に戻り、翌日の卒業式を控えておりました。

未明、空襲警報で外を見ると、焼夷弾が光の尾となり落ちてくるのを見たそうです。家族と共に防空壕に避難しましたが、防空壕といえども、爆弾の直撃を受けたらひとたまりもなく、母親は死ぬ時はせめて家族全員一緒にいようと言ったそうです。幸い家族は皆無事でしたが、空襲が終わり朝、外に出るとお寺は全焼。少し離れた所には、丸焦げになった遺体が何体もあったそうです。

千早町や近隣の町内から鶴舞公園に避難する途中に、多くの人々が空襲の犠牲になりました。その方々の菩提を弔うため、当時の町内会長や有志の方々が、戦後、千早平和地蔵を建立し、ご供養して参りました。

いろいろなご縁が繋がり、そのお地蔵様は現在、「ピースあいち」の資料館前に安置されています。

人々の尊い命、またご縁を一瞬で断ち切ってしまう戦争が、この世から無くなり平和な世の中になることを千早地蔵は願っていることでしょう。

## 沖縄に想う

大脇 雅子

(弁護士)



「戦力と言う愚かな力を持つことで、得られる平和など、本当はない 平和とは、当たり前生きること」

2018年6月23日沖縄忌、相良倫子(中学3年)平和の詩「生きる」より

私はいま、沖縄の基地建設の警備のために沖縄高江に派遣された愛知県警機動隊に対して、愛知県が公金を支出した行為の違法性を争う住民訴訟の弁護にかかわっている。沖縄県民の反対を押し切った危険なオスプレイの基地建設は違法であり、住民たちの非暴力の抵抗に対する警察官の弾圧行為は許せない。アジアの緊張緩和のなか、辺野古基地建設の継続は民意に反する。沖縄の人たちは、「憲法なき戦後」を生きて、日常的に、米軍や自衛隊の基地により「平和的生存権」を侵害されている。

平和的生存権とは、恐怖と欠乏から免れて人間の尊厳を保ちつつ「当たり前生きる」権利を言う。私は、平和を創造し、対話と信頼醸成によって多元的共生社会を作ること、あらゆる武力を完全に放棄し、財政や資源を軍事目的で利用しないことを、市民の権利として国または地方自治体が保障すべきであるとする「平和的生存権保障基本法」を作成して、法案の内容を深める作業を続けている。同世代の人たちは、「平和憲法」は、本来「非戦憲法」と呼ぶべきものではなかったかという。

「憲法改正」は阻止しなければならない。

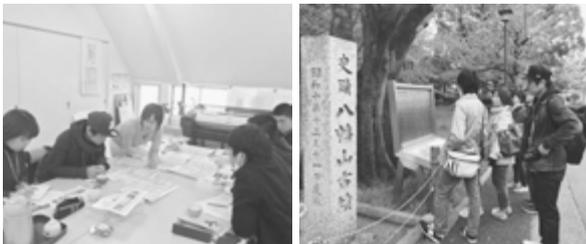
## 開館11周年 ピースまつり2018 5月6日(日)

日頃の感謝の想いを込めての無料開放。東邦高校軽音楽部の演奏、オカリナ演奏、バルーンパフォーマンス、朗読など、楽しいプログラムで一日過ごしました。



## 次世代交流チームが 活動を始めました!

仕事や子育てをしている「ピースあいち」の30代40代のボランティアを中心に、次世代との交流を広げて戦争の記憶を伝えていこうと、昨年12月に発足したチームです。4月におざわゆき先生の漫画『あとかたの街』の主人公の足跡をたどる街歩き、6月に動画の撮影・編集の勉強会をしました。9月30日(日)には学生に無料で「ピースあいち」に来てもらえる「学生の日」を開催する予定で、peace nine展との交流やピースカフェなどを企画し、楽しく準備を進めています。



## 名古屋市中学生副読本『ナゴヤ歴史探検』に ——「ピースあいち」紹介される

“郷土の歴史を学ぶ副読本”『ナゴヤ歴史探検』が発刊され、今年4月から名古屋市の中学校で使用が始まりました。中学生には無料で配布され、一般書店でも購入できます。縄文から昭和まで15の史実に焦点を当て、名古屋の歴史が書かれています。「戦争と名古屋」の項目で「ピースあいち」が紹介されており、「ピースあいち」の資料も使われています。



## 愛知サマーセミナー2018 (於: 相山女学園中学高校) 7月15日(日) 16日(祝・月)

今年は展示と講座に参加しました。展示は、夏企画「広島の高校生が描いた原爆の絵と原爆の図展」に先立ち、高校生の複製画を展示。講座は「戦争体験を次世代が語り継ぐ」。「杉本初枝／赤十字従軍看護婦の記録」「石原隆／広島原爆」「杉山千佐子／名古屋空襲で失ったもの」「日比野勝廣／沖縄戦」を語り継ぎ手の会会員が朗読、語りなどで紹介しました。



## これからの展示・イベント

- 15歳の語り継ぐ戦争  
「金城学院中学生の壁新聞」  
7月24日(火)～9月2日(日)  
修学旅行で行った広島で見て、聞いて、学んだことを、瑞々しい感性で壁新聞や文集にまとめて発表します。
- peace nine展  
9月11日(火)～9月29日(土)  
名古屋芸術大学の学生、教師、OB、大学外部作家らによる、憲法9条や平和をテーマにした美術展です。
- ピースコンサート 9月16日(日)  
名古屋二期会アンサンブル研究会の美しい歌声が今年もやって来ます。
- ピースあいち「学生の日」 9月30日(日)  
学生さん限定で日曜無料開館します。アーティストトークやピースカフェも!
- 準常設展示 子ども企画展「戦争と動物たち」と「戦争の中の子どもたち」  
10月2日(火)～11月30日(金)  
実物資料やパネル展示を通して、戦時下の子どもたちの暮らしや学校教育の様子を紹介します。

## シリーズ 平和を守る仲間たち③ あいち・平和のための戦争展

若い世代に戦争の悲惨さと平和の尊さを伝えるために、県内の30数団体が実行委員会を作って、毎年8月、展示や講演などを行っている。1992年が始まりなので、今年は第27回になる。会場は長く鶴舞の名古屋市公会堂4階ホールを使ってきたが、昨年からは、市民ギャラリー矢田に変更している。

県内には、多くの市民団体が種々の活動をしている。しかし、彼らの規模はいずれもそれほど大きくはない。だから、個々の市民団体がそれぞれ独自に市民相手に展示などの方法で自分たちの気持ちを伝えることは困難である。戦争展という形式で、多くの団体が集まれば、年に一回だけであるが、市民向けの、規模のやや大きい展示会を開催できる。これが、戦争展という形式が長く続けられてきた理由である。

それぞれの参加団体の展示以外に、別な企画も用意している。今年は中国から3つの団体が参加する。ハルビン市の731部隊記念館は初めての参加である。吉林省長春市の偽満皇宮博物院は馬などの動物相手の細菌戦を研究していた100部隊を紹介する。また、南京市の民間の抗日戦争資料館の展示もある。



▼8月16日(木)～19日(日)。10時～18時。最終日は17時終了。入場料500円。高校生以下、障がい者は無料。

(2018あいち平和のための戦争展実行委員会代表  
倉橋 正直)

### ボランティアの窓

#### 細く長く

川北 純子

十年前、近所に戦争の資料館ができ、ボランティアを募集している記事を見たのが「ピースあいち」との出会いでした。

私にもできる事があるのかしらと心配しましたが、展示室の片隅に座ってのんびり見ていたり、受付で入館料をいただくという仕事なので、やってみようと思いました。

ここでのひとは職場や家とも違い、時間が止まっているかのようで、違う空気にふれる時でした。

戦争に対しての私の知識は教科書1～2ページくらいで、薄っぺらなものです。でもここでの出会いは私の脳を目ざめさせ、活性化させてくれました。地元愛知の空襲・沖縄、ぞう列車の事などなど。ボランティアに来るといよりは私の勉強の場です。

月に一回がせいっぱいですが、細々と続けていけたらいいな～なんて、都合のよい事を考えています。



#### 戦争をなくすためには戦争の事実を知ること

安藤 正幸

故田中角栄氏が語ったという「戦争を知っている世代が政治の中核にいるうちは心配ない。だが、戦争を知らない世代が政治の中核となったときはとても危ない。」は正しく現在の状況に思えます。



私は昭和20年生まれなので毎年8月が来るたびに自分の年を知らされ、同時に父母が戦時中経験したことへの無知を感じます。戦争をなくすためにはまず戦争の事実を知ることが必要です。しかし、これまで大戦に関する本はほとんど読んでいませんでした。被害者視点ばかりでなく加害者としての責任についても知る必要があります。

寄贈品資料の整理をしつつ、館内の図書やネットを利用して、偏らない大戦についての知識を蓄え、展示ガイドができるようになればと思います。

資料館探訪 21

九・一八歴史博物館  
——日中戦争のきっかけ

九・一八歴史博物館は瀋陽(シェンヤン)市の柳条湖跡に建てられている。1931年9月18日夜、南満州鉄道の奉天(現瀋陽)郊外柳条湖で小爆発が起きた。日本軍は張学良軍の仕業であるとし、奉天を占領し、満州事変を起こし、日中15年戦争に入っていく。

博物館の横には鉄道が走っている。湖といわれるものがあるのかと線路内に入り眺めたが、周りにはそれらしき溝も湖も残っていなかった。

博物館の前には「残歴碑」と呼ばれる巨大なモニュメントが建っている。博物館の中

も広く、展示品も多い。抗日運動の勝利への過程と、日本軍が行った侵略行為の数々がジオラマ等を多用した展示により詳しく説明されている。

日本語で書かれた展示もあり、板垣征四郎や石原莞爾のレリーフもあり、当時の日本軍の武器等々も展示されている。

「中日両国の人民は誠意をもって、平和裏に交流し、友好往来が実現するよう祈念する」という『中日両国の友好往来』というパネルがあったのが印象に残っている。

(N)



月一回の発行で「ピースあいち」の活動がタイムリーにわかる「ピースあいち・メールマガジン(無料)」。「ピースあいち」のホームページからお申し込みください!

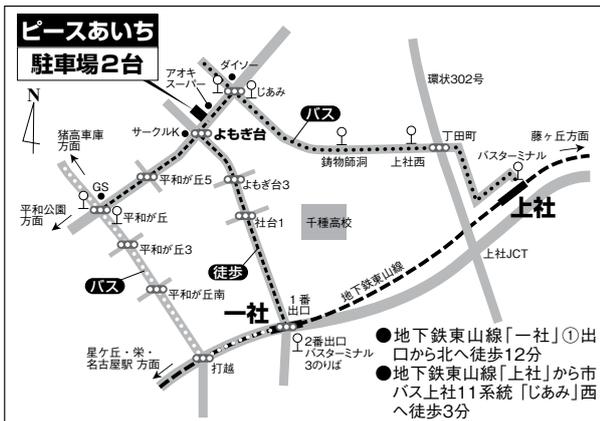
ぜひ「ピースあいち」の会員に!

NPOの総会も終わり、宮原大輔館長のもと開館11年目の企画もはじまりました。

「ピースあいち」の基本財源は、入館料(大人300円・子ども100円)と会員の皆さんの年会費(正会員6000円・賛助会員3000円)です。来館者数は、開館した2007年は約12,000人、以後は6,000人前後で推移してきました。

現在会員数は913名(正会員370名・賛助会員543名)ですが、「ピースあいち」の年間経費約1,154万円には大きく足りません。不足分は不確定な寄付金や助成金に頼っているのが現状です。自主財源の確立は、まず会員の拡大です。ぜひ多くの方に会員になっていただき「ピースあいち」を支えてくださいますよう、現会員の方々のご協力もお願い申し上げます。

「ピースあいち」への交通のご案内



【ピースあいちの利用案内】

- 開館日 火曜日～土曜日
- 開館時間 午前11時～午後4時
- 休館日 日曜日・月曜日・12月26日～2019年1月4日
- 入館料 大人 300円 小中高生 100円
- 常設展示「愛知県下の空襲」「戦争の全体像・15年戦争」「戦時下の暮らし」「現代の戦争と平和」、準常設展示「戦争と動物たち」「戦争と子どもたち」。ほかに、図書や戦争体験DVDのライブラリーもあります。
- 学校や団体の見学で、展示ガイドや体験談を希望される場合は、事前にご相談下さい。
- 駐車場は2台分あります(300円)。他に障がい者用が1台分あります(無料)。

●編集後記●

当館の設立が具体化しはじめた2005年11月12日から1泊で、スタッフのメンバーが平和運動を進める平和資料館・岡山、高松、高知の3館を訪ねた。高知平和資料館「草の家」のリーダーの一人がこんなことを話された。「こうした運動は、みんなで取り組まないと続きません。また、楽しくないと広がりません」と。

この言を受けて、この『ニュース』の原稿は、スタッフ、ボランティアの方々をお願いしている。皆さんの人脈は広い。このため、企画展にしろイベントにしろ、新しいアイデアが次々と寄せられている。こうした大勢の人たちの手で平和運動の輪を広げていきたい。(S)